

TADESKA 報告レジュメ

日時：2013 年 12 月 7 日（土）10:30 – 12:30

関西学院大学梅田キャンパス

テーマ：「所要時間 20 分の教案を作る – スペイン語の読み方・発音」

担当：柳田玲奈

参加者：12 名

内容：

- ・はじめに担当者から、スペイン語の読み方・発音に関する 20 分教案を使った模擬授業が行われ、その後参加者全員でテーマについて話し合いがもたれた。
- ・教案はスペイン語の初級学習者を対象に最初の授業で使うことを想定し、スペイン語で使用する文字の導入から始まり、単語の発音、アクセントの規則までを範囲とした。20 分におさめるという制約のため、単語が連なった場合や文になった場合については含まれていない。また、学習者に発音練習させる時間もほとんどとらなかった。
- ・所要時間 20 分をコンセプトとして掲げた教案であったが、実際にやってみると、急ぎ気味で説明したにも関わらず 30 分以上かかった。このことから、まずこの内容を 20 分でこなそうとすることに無理があるという意見が多く出た。解説の間に適宜発音練習などをさせていると、倍の時間でも足りないだろう。初級の最初の授業 2 コマ分を発音の説明に割くという教員もいた。また、発音については初級授業の冒頭だけでなく、学習を進めていく中でも随時注意を促す必要があるという意見も出た。
- ・5 母音を「強母音」と「弱母音」に分類して紹介したが、アクセントの話になったときにアクセントの部分を「強く発音する」などという言い方をするので混乱が生じる可能性があるという指摘があった。「開母音」「閉母音」という名称で紹介すると、学習者が自分の体でその名を実感しながら覚えることができるので定着しやすいかもしれないという意見が出た。しかし二重母音の説明では「強母音は独立できるが弱母音は独りで立ってられない」というイメージが使えるので、「強・弱」の分類にも利点はあるので、どちらとも決めがたかった。「強母音の文字にはどこかに丸い部分がある」という文字の形態的特徴を捉えた説明も、初級学習者には印象に残りやすいかもしれない。
- ・発音をカタカナで表記することの是非について、以降すべての発音をカタカナに置き換えてしまうことを誘発しかねないのでやめた方がいいという意見と、最初はとっつきやすいし日本語と音が似ていることを実感できるので特に最初は有効という意見とが出た。ただし今回教案でカタカナを表記した部分に関しては、それがなくても読める単語ばかりを集めてあったので、削除することにした。
- ・アクセントについて説明する前に 3 音節語を提示すると、学習者が日本語の頭高アクセントで読んでしまう可能性があるので、2 音節語にそろえた方がよいという指摘があった。
- ・アルファベットのうち英語と読み方の違う文字の色を変えて分かりやすくしたことに賛成の意見もあったが、そもそも担当者が随所で「英語はこうだけれど」という説明をし

ていたことにも問題があるだろうという指摘があった。英語との違いを示すことで分かりやすくなることもあるかもしれないが、逆に英語を中心とするような偏った印象を与えることになったり、いつまでも英語モードからスペイン語モードになれない学習者を生む結果につながる可能性があるため、あまり強調しない方がいいだろうという意見に、担当者も納得した。

- アクセントの説明の仕方は、日本語の単語を例に挙げて説明するあたりが好評だったように思うが、アクセントが落ちる単位を母音とするか音節とするかなど、学習者によって説明方法を変えた方がよさそうなこともあった。「音節」ということばを避けるため「母音のあるところ」というような言い方をするという意見もあった。また、どうしたら二重母音を視覚的に分かりやすく説明できるか、パズルを使用することや黒丸と白丸を並べることなどが提案されたが、なかなか決定的な方法は挙がらなかった。
- 今回の教案は初回授業で用いることを目的とし、20 分集中的に説明するためのものとして提案したが、毎回の授業冒頭で 5 分か 10 分使って読み方や発音について学習するような教案があってもよいという意見があった。それなら、その他の文法学習と並行して徐々に高度な発音に慣れさせることにもなるし、4 月の始め頃に学んだことが学期の後半になると他の文法事項の学習に気を取られてすっかり頭から抜け落ちてしまうというようなことも防げる。
- スペイン語は発音するのが簡単な言語かという疑問に対し、担当者は英語という下地のある学習者たちにスペイン語の発音を定着させることに困難を感じていたためあえて発音が簡単だとは言わない方がよいと考えていたが、他の言語と比べるとやはり日本語話者にとってスペイン語は発音しやすい言語だと言えるだろうという意見が多かった。ネイティブと同じレベルで正しく発音しようとするのが難しいが、ある程度通じるか通じないかというレベルであれば容易に達することができるだろうというのが理由。
- 授業内でのディクテーションを実施している教員数名から、どのような方法で行っているかということを教えてもらった。3 回ほど流して完成させるという教員が多かったようだが、iPod の **slow player** という無料アプリを使用して音声教材の発話スピードを自由に変えて行っているという教員もあり、大変参考になった。
- 教室内で発音練習をさせるには、その場の雰囲気作りが非常に大切だろうという意見があった。学習者が周りの目を気にして正しい発音をしないという現象が頻繁に見られるクラスと、活発に楽しんで発音している姿が見られるクラスとがあるようだ。間違えながらも臆せず楽しくみんなで一緒に正しい発音を目指せる雰囲気作りが求められることを改めて確認した。
- 今回は単語レベルまでの解説を詰め込んだ形だが、将来的にはこの続編として句や文の読み方についての教案も提示したい。

以上。